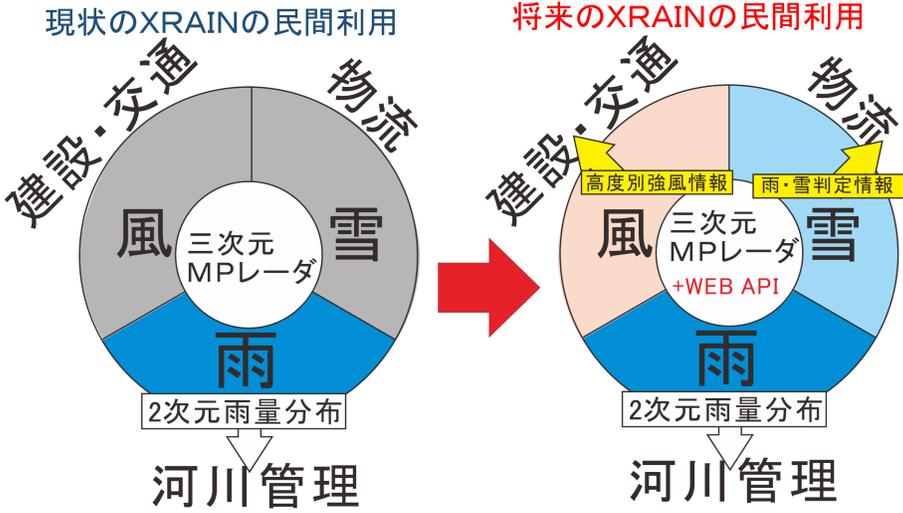


XRAIN等を用いた高度気象プロダクト作成によるイノベーション創出に向けた調査

代表機関： 国立研究開発法人防災科学技術研究所
 分担機関： 一般社団法人 日本気象協会
 輔

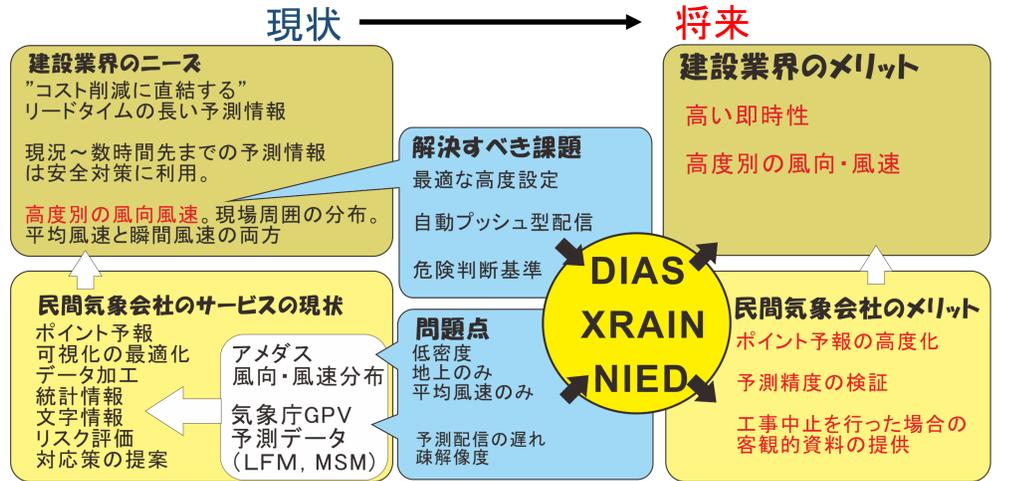
実施責任者： 清水慎吾
 後藤祐

解決を目指す社会的課題とユーザーニーズ



現状では河川情報センターが配信している2次元雨量分布のみが民間利用されており、風と雪の情報が利用できない。本提案では、XRAINを用いて、リアルタイムで強風と降雪の分布を推定・配信するアプリケーションを提案する

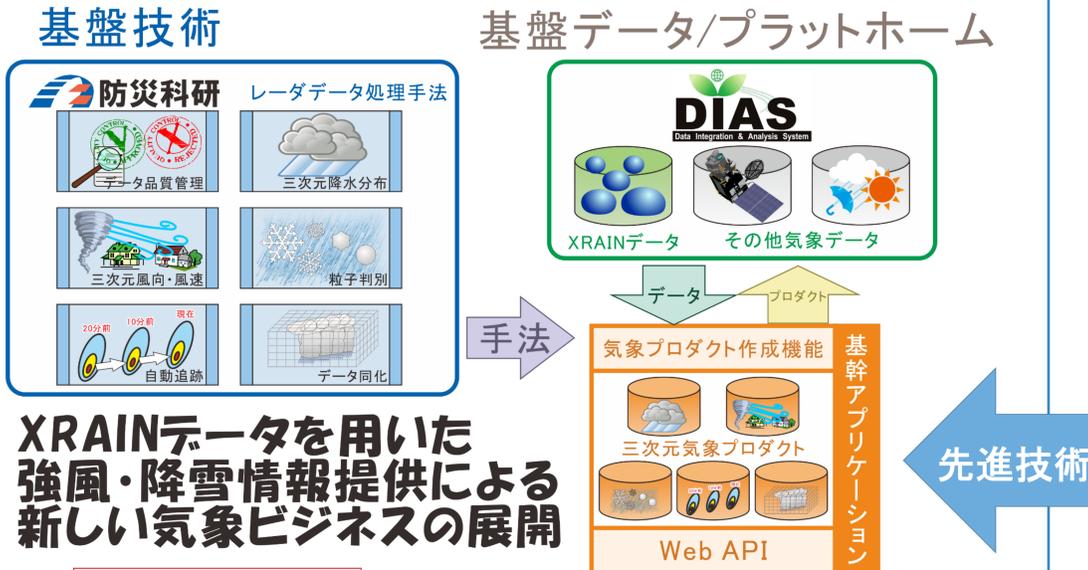
強風に関する民間気象会社と建設業界のニーズとDIASアプリ導入効果



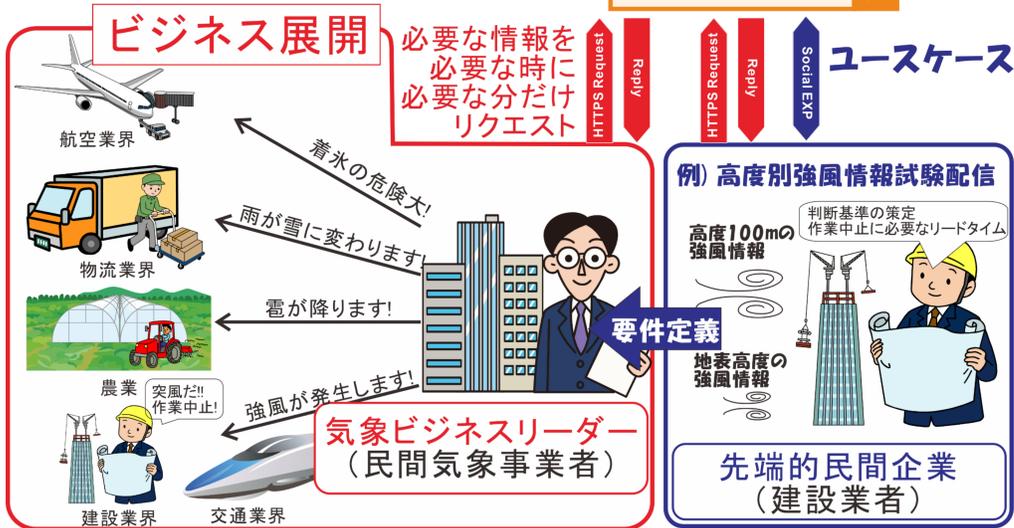
本FSでニーズ調査を行い、建設業界では建設現場での強風情報に大きなニーズがあり、基幹アプリケーション導入効果が最も期待される

ソリューションの提案

事業のイメージと新しい気象ビジネス展開



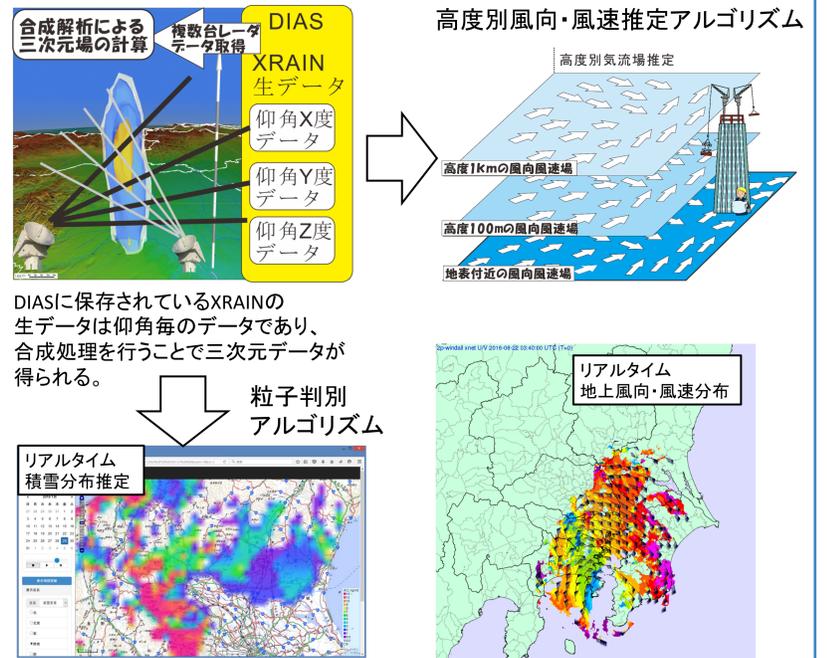
XRAINデータを用いた強風・降雪情報提供による新しい気象ビジネスの展開



本課題では、防災科研のレーダデータ解析技術を基盤技術とし、国交省XバンドMPRレーダ(XRAIN)のデータを基盤データとして用い、DIASを解析プラットフォームとする。ここでは、雨情報のみならず、三次元の風情報および雪情報を提供するアプリケーションを開発する。アプリケーション開発中に、先端的民間企業とデータの試験配信を行い、社会実験を行う。社会実験で得られた知見をもとに、民間気象事業者がビジネス展開ができるようにプロダクトを高度化する

ニーズに基づく配信方法の検討

課題の特徴(技術的な先進性)とDIASの活用



DIASのXRAIN生データを利用し、リアルタイムで高度別風速場を推定する。またXRAINの偏波情報を利用し、降雪分布図をリアルタイムで推定する。

代表的な3つのユーザー層へのWEB-API配信方法

専門家向け(鉄道管制、民間気象会社など) : 2次元プロダクト(風や積算雨量)
 工事現場向け(建設、通信建設など) : ポイント時系列、アラート機能
 メディア向け(テレビ局など) : 過去の3次元プロダクト

